

## (12) 防災・安全教育研究会

会 長 中平 泰史 (具同小)  
副会長 村上 克仁 (中村南小)  
事務局 松浦 愛 (東山小)

### 1. 研究主題 「僕も君も助かる、実践的防災・安全教育」

### 2. 研究経過

| 実施年月日       | 研 究 の あ ら ま し   | 会場    | 備考        |
|-------------|---|-------|-----------|
| 令和6年5月7日(火) | 四万十市教育研究会 組織総会<br>内容：役員選出、研究主題設定、年間計画                                       | 中村中学校 | 23名<br>参加 |
| 令和6年8月2日(金) | 四万十市教育研究会 夏季研修会<br>内容：講話、演習<br>講師：岡村 郁也さん(四万十市地震防災課)<br>城下 優里恵さん(四万十市健康推進課) | 中村小学校 | 22名<br>参加 |

### 3. 令和6年度 四万十市教育研究会 夏季研修会

日時：令和6年8月2日(金) 9:00～11:00

内容：今年度の夏季研修会では、能登半島地震災害派遣について講話をしていただき、避難所の運営等についてグループ演習を行った。

講師：岡村 郁也さん(四万十市地震防災課)、城下 優里恵さん(四万十市健康推進課)

#### (1) 講話「能登半島地震から学んだこと」

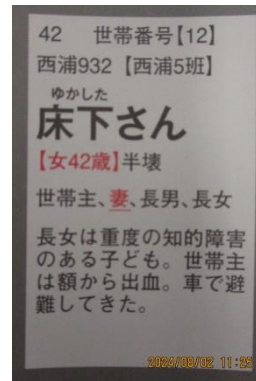
災害派遣活動報告について講話をいただいた。避難所の様子を中心に、健康推進課城下さんからは保健師として、清掃・運動・食事面のサポートについてお話を聞くことができた。地震防災課岡村さんからは、震災で命を守った後、ライフライン復旧までの備え、非常食よりは電気や水などの備蓄品が必要である事、災害関連死を防ぐ為に開設した1.5次避難所の様子や2次避難所への移行、現場の困り感などについて講話をしていただいた。



#### (2) 演習「HUG(避難所運営ゲーム)」

避難者の年齢や性別、国籍やそれぞれが抱える事情が書かれたカードを避難所の体育館や教室に見立てた平面図にどれだけ適切に配置できるか、また避難所で起こる様々な出来事にどう対応していくかを模擬体験するゲームをグループに分かれて行った。





#### 4. 今年度の成果と課題（参加者の感想より一部抜粋）

##### （1）講話「能登半島地震から学んだこと」

- それぞれの立場から具体的な避難所運営、避難者の様子の話が聞け、参考になった。ライフラインがストップした時の備蓄品等については今一度確認し、整備したいと思った。
- 実際に派遣で行かれた方の話を聞くことができ、多くの写真で説明して下さったことでとても分かりやすく想像しながら考えることができた。もう間もなく訪れるであろう南海トラフ地震の際に少しでも落ち着いて行動ができるよう心づもりと備えをしておきたいと感じた。
- それぞれ派遣された方の専門的な視点の話は今まであまり詳しく聞いたことがなかったので、新しい学びがあった。
- 1.5次避難という言葉を知り、避難所の運営について実態を知ることができた。
- 自分ごとで考えて、地震が起きるまでに何をしておくか、起きてからどのように行動し生活をしていくか検討する必要があると思った。食事はもちろん洗濯や入浴、運動、栄養バランス、清掃など多くの事に目を向けて準備をしておかないといけないと思った。今日学んだことを防災学習で子どもたちに気付かせてあげたいと思った。
- 避難所となる施設には、災害時情報収集ができるよう wi-fi 環境を整える必要がある。ポータブル電源も備えておいた方がいいと思った。
- 事前準備の重要性はこれまでも感じていたが、事後についてもきちんと考えておくこと、対応を想定しておくことの重要性を改めて感じた。
- 備えに上限はないと思った。自校のマニュアルも確認してみたい。

##### （2）演習「HUG（避難所運営ゲーム）」

- カード分けをしてみて、色々な配慮事項に戸惑った。優先順位を見極めるのが難しかった。また、避難所運営をしていくにはかなりの人数がいるとも感じた。
- 一人一人の状態は把握できても他の人との兼ね合いを考えるのが大変だった。事前に地区や年齢、疫病などの条件に合わせてどこで生活してもらうのか一定のマニュアルがあればいいなと思った。
- 初めて体験して迷うことが多かった。本部の場所などを事前に決めておくべきだと分かった。
- 運営側の連携がとても重要になってくると感じた。受け入れるには事前準備が大切だと感じた。
- 今回2回目の体験でしたが、何度しても悩みました。時間も無く慌てることは想像できるが落ち着いて対処していきたい。
- 様々なことを想定しながら、何度もHUGに取り組むことも大切だと思った。
- 学校としてどう動くのか、繰り返しシュミレーションしていくことが大切なので、職場でも全教職員で行うことも必要だと感じた。
- それぞれが自分の住んでいる地域の自主防災のメンバーの方たちと一緒に避難所をイメージしながらこのゲームをしてみたいと思った。共助の意識をもち、広げたいと思った。